

実施主体、事業名などの概要

- ・事業名：「飲水思源」～やんばるの水に親しみ、その源に思いをはせる～
- ・実施主体：一般社団法人大宜味村観光協会
- ・対象地域：沖縄県大宜味村
- ・対象とする良好な環境：平南川流域「令和5年度良好な水循環・水環境創出活動推進モデル事業対象」

地域の現状・課題

- ❑ 急速に観光地化したことから、来訪者は、フィールドの特性、危険性、地域の自然観への認知がない。認知を広げる情報発信が必要。
- ❑ 観光地化の一方で、地域住民と流域との関りは近代化に伴い暮らしの場から離れ薄れつつある。かつての流域での暮らしを元に、来訪者を迎える新しい時代の流域活用と地域の関係を取りまとめ、平南川流域を「地域の宝」として共有し発信したい。
- ❑ 平南川流域を持続可能な観光地とする仕組みはまだ十分と言えないことから、制度設計をする必要がある。

目指すべき姿（中長期ビジョン）

- ❑ 国内外からの来訪を、新たな地域復興の機会としてとらえ、来訪者と地元住民が協働し、地域がより良くなるリジェネラティブな取り組みをすすめるため、これを担保する「責任ある観光」の体制を確立し、将来にわたり推進すること。

実施項目（事業内での取組）

- ❑ 増進活動実施計画の申請と運用
- ❑ インタープリテーション全体計画策定と人材育成
- ❑ 持続可能な情報発信プロジェクト2
～深掘りしたビジョンの発信～

R8：推進体制構築

R9：流域全体へ (事業期間終了後)

R7：地域の宝とは

実施項目（事業内での取組）

- ❑ 地域資源の現状把握・ガイドینگ（コンテンツ）方針の調査
- ❑ 持続可能な情報発信プロジェクト
- ❑ インタープリテーションの検討
- ❑ オーバーツーリズム抑制の検討

実施項目（自走化）

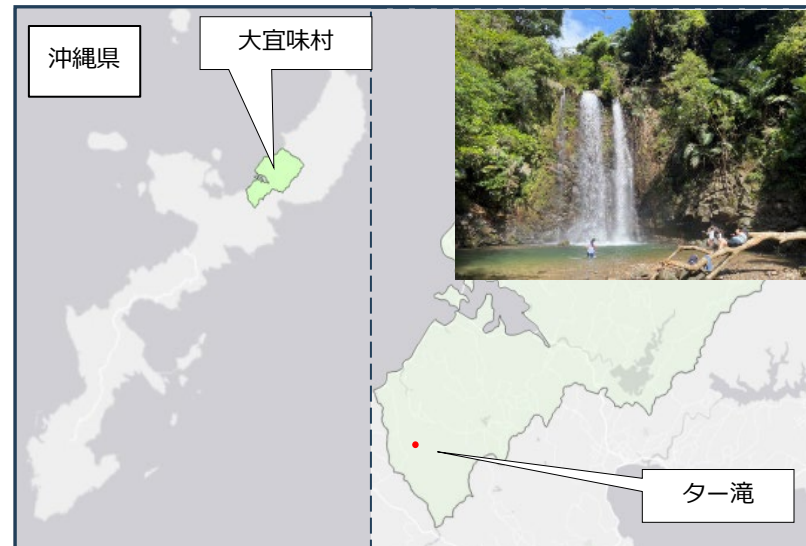
- ❑ 最上流部～下流マングローブ林を含む、流域全体への「良好な水環境」保全活動の拡大
- ❑ パークキーパー育成強化
- ❑ 持続可能な情報発信プロジェクト
～効果検証とブラッシュアップ～

対象となる良好な環境の概要

□ 「平南川流域」は大宜味村の水源地であり、沖縄県内でも数少ない「水辺の自然体験」ができる観光地「ター滝」を併せ持つ流域です。

古くから地域の人々にとって、豊かな森の恵みを育み、そして運び、田畑を潤し、子どもたちの遊び場であり、「暮らしの場」として重要な場所です。

□ 大宜味村観光協会では、ター滝の指定管理者として、来訪者へのター滝の紹介と、日常的な天候把握・安全情報発信、緊急対応、流域環境保全活動に加え、地域住民が観光を通じて参画するとともに地域を支える人材を育成することに取り組んでいます。



良好な環境に係るストーリー

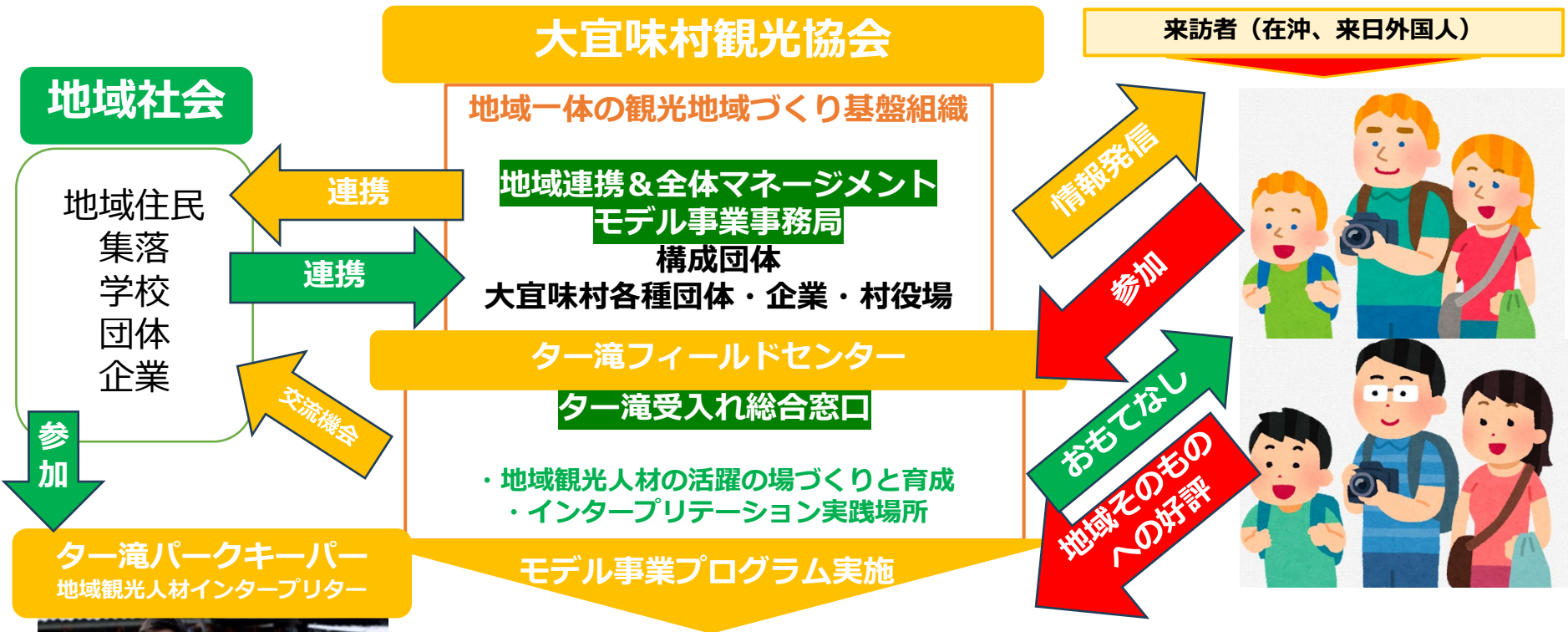
- ①地域が愛する平南川ター滝と、これに連なるやんばるの自然を感じてもらう
- ②来訪者と地域による環境保全活動への参加
- ③自然体験に参加する人が、自身の責任ある観光の一環として、安全管理に必要な行動をおこなう

□ 大宜味村では、先祖から受け継いだ貴重な財産である平南川流域を、広く世界の人々と協働し多様な人々が楽しみ学べる場所として、よりよい形で次の世代へ繋ぎたいと考えています。地域の精神性は、琉歌からも感じることができるでしょう。

「平南走川水上の真水、間切りお真人の宝さらめ」
～平南川の清らかな流れは、万人の宝なのだ～

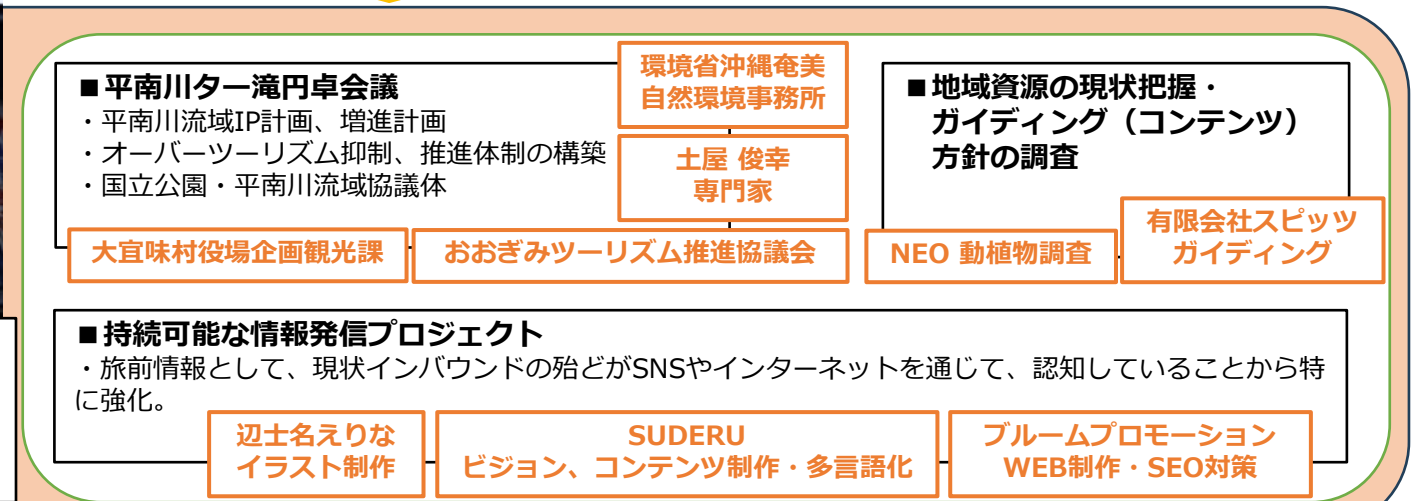


実施体制（図示）



ター滝IP計画実践主体

- ・「良いものだけを提供する」姿勢
- ・来訪者へ持続可能な選択肢を提示
- ・「地域の宝」フィールド管理（保全・安全・活用）



【R7年度取組】

地域資源調査

- 平南川流域の内、ター滝周辺哺乳類・爬虫類・両生類・魚類・低生動物・鳥類・植物の調査を実施。

◎夏期の調査を完了。

ビジョン制作

- 地域の自然的特性と歴史・文化・産業の結びつきを踏まえたストーリー、来訪者に打ち出すべきメッセージ、地域としてのブランディングに関する戦略

◎方針・シナリオ完了

HP制作

- 旅前情報として、世界に向けター滝の安全情報やブランディングをメッセージとしてHPを通じて発信する。

◎サイト構成（サイトマップ、ワイヤーフレーム）完了

制度設計

- すべての来訪者に案内できるインタープリテーション全体計画の方針、保全と利用の好循環を実現するための利用のルールや、利用の対価が保全に再投資される仕組みづくりに関する検討。

◎ガイディング講習 完了

特に工夫した点・取組成果

- 鳥類、哺乳類を対象に定点カメラによる調査を実施。
- 秋冬期動植物調査を実施予定。
- 次年度は今年調査出来なかった期間の調査を予定。

◎結果はフェノロジーの紹介などインタープリテーションで活用し、また今後のモニタリング手法策定など保全に資する。

特に工夫した点・取組成果

- 動画撮影と映像編集
- イラスト制作
- 看板印刷

特に工夫した点・取組成果

- メインビジュアル、キャッチコピーの選定
- テキスト作成
- 10月 コーディング・CMS
- 11,12月 テストサイト公開
- 1月 - 公開

特に工夫した点・取組成果

- 第一回の検討会議：10月27日開催予定
- 第二回検討会議：1月中旬開催予定

R7年度のゴール

- 持続可能な観光ビジョンの方針作りと情報発信の試行・保全と利用の好循環を実現するための利用のルール、オーバーツーリズム抑制の制度設計の枠組みの整理。

課題

- ・観光収入が地域環境に再投資される仕組みとして、地域観光人材の雇用と安全・保全活動推進、将来を担う地域児童生徒への自然体験・環境教育の充実を推進し、この取り組みをIP計画、HPを通じて効果的に可視化できるように整えること。
- ・平南川流域において、かつての人々が大切にしていた文化・神聖性を踏まえた資源管理を重視した仕組みとすること。

取組内容詳細1：地域資源調査・ガイディング（コンテンツ）方針の調査

□ 流域生物調査（踏査・自動撮影装置・録音マイク調査）※詳細な調査結果は別添資料を参照

- ・ **植物**：対象地域をできるだけ詳細に踏査し、生育している維管束植物を可能な限り記録。維管束植物のうち、天然記念物、国内希少野生動植物種、環境省レッドリスト、沖縄県のレッドデータブックなどに掲載されている重要な植物種の写真撮影、確認位置、個体数を記録。救助道周辺の重要な植物確認地点に、マーキングを行った。
- ・ **動物**：調査地区を踏査しながら、個体の目撃、フィールドサイン、鳴き声、卵、幼生（幼虫）などにより、生息する種の確認を行った。夜間の踏査時には、バットディテクターを携行し、目視で確認が難しいコガタコウモリ類の生息確認を行った。夜行性鳥類であるリュウキュウコノハズク、リュウキュウオオコノハズク、リュウキュウアオバズクの鳴き声を再生して反応による生息確認目的としたコールバック法による調査を実施した。
- ・ **水生生物**：河川や水たまりで、水面からの目視や潜水目視により、魚類及び底生動物の生息確認を実施し、夕毛網を用いて生息種の同定や写真撮影を行い、放逐した。重要な種は、確認位置（GPS及び地図に記録）や個体数を記録した。



専門家同行による流域生物踏査
(右下：大宜味村観光協会スタッフ)

大宜味村役場との合同現地視察
(大宜味村観光協会スタッフ撮影)

取組内容詳細1：地域資源調査・ガイディング（コンテンツ）方針の調査

□ 結果

2025年8月から12月にター滝周辺で植物、哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類、底生動物の調査を実施した。維管束植物106科341種、哺乳類4目4科5種、鳥類7目13科19種、爬虫類2目5科6種、両生類2目5科6種、魚類5目8科18種、底生動物4門5綱15目60科83種が確認された。底生動物の内訳は扁形動物1目1科1種、軟体動物2目4科4種、環形動物1目1科1種、甲殻類2目6科15種、昆虫9目48科62種であった。

- ・河道付近はフカノキ、アカメイヌビワ、ホソバムイヌビワ、エゴノキ、斜面部はイジュ、アデク、コバンモチ、イタジイなどの常緑広葉樹二次林が成立し、溪流沿いにはケラマツツジ、オキナワヒメナキリ、ヘラシダが生育。
- ・ノグチゲラの鳴き声やドラミングを確認。一方、やんばるを代表する動物の多くが確認されなかった。ケナガネズミ、ホントウアカヒゲ、リュウキュウアカガエル、オキナワイシカワガエル、ハナサキガエル、ホルストガエル、ナミエガエル
- ・過去にター滝周辺で確認されていたアオバラヨシノボリは確認されなかった。
- ・外来種は、上流から下流にかけてベニツツバナ、アメリカハマグルマが生育。動物は上流でニホンスッポン、下流耕作地でシロアゴガエルが確認された。

今後について

2026年度は、調査できなかった、春季から初夏の期間を調査し、ター滝周辺での動物相の把握をさらに進めたい。

モニタリングは観光による環境影響を推測するに資するだけでなく、足元の自然環境を常に把握し続けるために重要である。インタープリテーションへ活用し、地域の価値観と共に来訪者へ伝えたい。

次年度以降、コンサルタントと調査同行しつつ、地元人材でも調査を行える体制の構築を目指した人材育成に取り組むこととしたい。

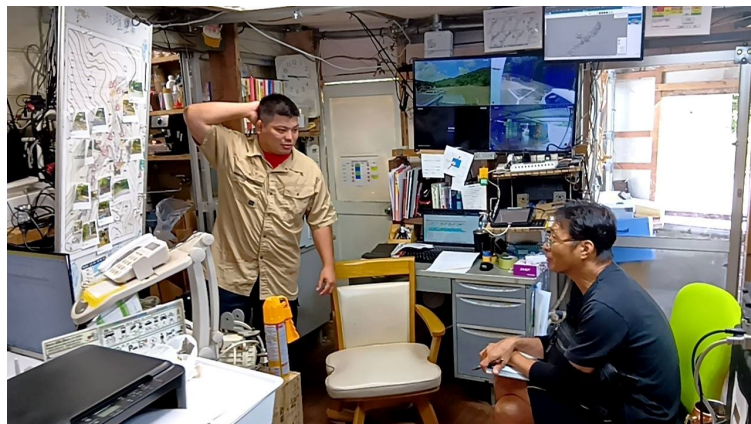
取組内容詳細1：地域資源調査・ガイディング（コンテンツ）方針の調査

□ 先進地視察（自然環境団体ヒアリング・インタープリテーション・フィールド管理）※詳細別添補足資料P14～19参照

・自然公園財団土屋俊幸氏、高尾山ビジターセンター、那須平成の森ビジターセンターを訪問しヒアリング及び視察を実施した。先進地の知見を得て、フィールドを管理しながらすべての来訪者へのインタープリテーションについて必要性についての理解が深まった。

□ ガイディング講習（川の楽しみ方と安全確認のあり方について）※詳細は別添の補足資料p21～29参照

・川の楽しみ方と安全確認のあり方について、講師よりアドバイスを頂き、実際の来訪者の行動について理解を深めた。得られた成果は次年度「水の里山歩きプログラム（すべての来訪者が川に親しむためのモデルプログラム）」として、ター滝インタープリテーションへ反映させる。



先進地視察
フィールド管理者によるインタープリテーション（高尾山）

ガイディング講習
水の里山歩きプログラム造成の調査

課題

- 自然共生サイトを指標に、持続可能なモニタリング計画の立案と実践、人材育成
- 安全性の確保のための人材育成、インタープリテーションの実践。

取組内容詳細2：ビジョン制作

□ かつての平南川の暮らし、生活から生まれた信仰や神事を見つめなおすための地域調査を実施

- ・過去：流域にかつては村が存在し、人と自然が共生する。「御嶽」や怪異（マジムン）のエピソードが残る
- ・現在：拝所への道、里道がなくなる。ケラマツツジなど里山共生を表すような植物が見られなくなる。

ター滝（地域の宝）で来訪者を受け入れ、かつての自然と地域の人々の絆を取り戻し、持続可能な観光振興に取り組むため、次のようなコンセプトを作成。詳細は別添の補足資料p5～6参照。

□ コンセプト：ゆかる水ぬ源。

※「ゆかる」は「縁が繋がっていくこと」。沖縄で「ゆかる日」はよろこびの日を指します。

この滝のはじまりや 奥ゆかしき天の雫。山に守られ 森に包まれ 里を潤してきた川。人は水の恩恵で暮らし 水面はその心を映し出す。清き水の源に分け入ってわらび（童子）の心で遊び。自然への感謝と畏怖をちむ（肝）に深く落とせば、今日ぬ ゆかる日に 滝の水も澄みわたる。



ビジョンのための平南川流域地誌調査

- ・滝の緞帳
- ・豊年祭で奉納される「大主」（ジャーモーラスン「大蛇踊り」）かつて集落を悩ませた大蛇を調伏する芝居
- ・流域に点在する御嶽

課題

- ター滝の概要を伝えるコンテンツに、地誌や地域の信仰などについて伝える映像やテキストを追加し、より深くター滝を知り大切に思い保全活動への参加につなげるような取り組みとして深化したい。

取組内容詳細2：ビジョン制作

3つの動画を通じて、旅人の心の変化を導く → 「ター滝を訪れ、全身で楽しみ、地域の想いを知り、共に未来へつなぐ」

1. 安全ガイドビデオ ～旅前の準備と心構えを整える （ター滝公式サイト掲載 <https://ta-taki-falls.com/>）
2. 小さな冒険ガイド ～ター滝の地誌と、地域の子どもになってター滝で遊び、学ぶ ←次年度制作
3. 持続可能な未来へ ～地域の想いと取組を知り、共にサステナブルな未来をつくる ←次年度制作

ター滝を訪れる人が「安全に楽しく水と触れ合い、心に残る体験をする」物語を経て、訪問を重ねるうちにター滝のことを大切に思うようになり、もう一歩進んで、「地域の人たちの想いや取り組みを知り」、共に未来のター滝をつくっていくというゴールを設定する。平南川ター滝流域が、暮らす人にも、働く人にも、訪れる人にとっても、「ゆかる水ぬ源（佳き水のもと）」として持続していくことを願って。



ビジョンを具体化し発信するための動画制作

調査をもとに、パークキーパー（地域観光人材）による平南川ター滝の安全な楽しみ方の発信のための撮影・編集

取組の成果

◎ビジョンと平南川流域の地誌調査

かつての平南川の暮らしと、生活から生まれた信仰や神事を改めて見つめなおすための調査・撮影を行った。今後、地域の人々が山や川へ抱いていた思いをビジョンとシナリオへと反映している。

◎ビジョンを具体化する動画撮影

世界からの来訪者に向けて、ター滝パークキーパーが、インタープリターとして川の魅力を伝える動画を制作。（総集編）

取組内容3：ビジョンと情報発信（看板・ゼロエミッション）

■ター滝看板デザインの作成



■ター滝ゼロエミッションの取組内容



■取組の成果

◎ター滝看板デザイン

人と自然を繋ぐをコンセプトに、安全対策が体験の質を高め、川と一体となって親しめるチャレンジをイラストで表現。

◎ター滝ゼロエミッション※詳細は補足資料p20を参照

- ・来訪者、地域全体が責任を共有するシステム構築を目指し、来訪者によるゴミ拾い活動推奨写真プレゼントで22組の協力が得られた。
- ・名水の量り売りエコボトルの推奨では、909件の協力があり、使い捨て容器ペットボトルの削減が出来た。

取組内容3：ビジョンと情報発信（看板・ゼロエミッション）

■総合デザイン（小さな冒険・安全・ゼロエミッション）

ター滝までの道のり

— The route to Ta-taki falls —

水の音を聞いてみよう

Listen to the Sounds of the Water

STEP 5

目を瞑って耳を澄ませ、水の流れを聴いてみましょう。水の音は、川の生命力の証です。目を瞑って耳を澄ませ、水の流れを聴いてみましょう。水の音は、川の生命力の証です。

Close your eyes and listen to the sound of the water. The sound of the water is a sign of the river's vitality.

体の力を放り、川に身を委ねる

Relax Your Body and Surrender to the River

STEP 3

目を瞑って耳を澄ませ、水の流れを聴いてみましょう。水の音は、川の生命力の証です。目を瞑って耳を澄ませ、水の流れを聴いてみましょう。水の音は、川の生命力の証です。

Close your eyes and listen to the sound of the water. The sound of the water is a sign of the river's vitality.

どこまで水に入れるかチャレンジ

How Far Can You Go into the Water?

STEP 2

必ず慎重に、決して無理な泳ぎをしないこと。泳ぎが得意な方でも、必ず慎重に、決して無理な泳ぎをしないこと。泳ぎが得意な方でも、必ず慎重に、決して無理な泳ぎをしないこと。

Be careful and never make any rash decisions. Even if you are a good swimmer, be careful and never make any rash decisions.

浅瀬で川歩きチャレンジ

Walking Through the Shallow Stream

STEP 1

足元を慎重に確認し、歩幅を小さくし、ゆっくりと歩きましょう。足元を慎重に確認し、歩幅を小さくし、ゆっくりと歩きましょう。

Check your footing carefully, take small steps, and walk slowly. Check your footing carefully, take small steps, and walk slowly.

ター滝の沢登りに向かうみなさんへ

ター滝へ向かうルートは、川の中を通り、滑りやすい岩場を登るなど危険を伴う沢登りとなります。

沢登りはリスクの高い自然体験です。すべて自己責任となりますので十分な準備で臨んで下さい。

少しの不注意から骨折などの大怪我につながりますので、身を守る知識や経験に加えマリンシューズなど岩場で滑らず登れる靴が必要です。

岩場には危険を軽減するためロープを設置していますが、沢登りに自信が無い方、ロープを使うことに自信が無い方、足回りの装備が十分でない方は、大変危険ですのでター滝の沢登りはご遠慮ください。

2021年9月28日
一般社団法人大宜味村観光協会

Safety Precautions for the Ta-taki falls

Hiking to the Ta-Taki falls is a great experience in a natural environment, but it can also be dangerous. It requires you to walk through the river on slippery rocks and to climb along the waterfall. Please be careful and be prepared, and we remind you to hike at your own risk.

If you don't pay attention, you can get seriously injured. Please hike with someone who has a knowledge and experience of hiking or trekking. It is also highly recommended to wear water shoes which prevent you from slipping at the rocky spots.

Do not hike if you are:

- NOT feeling well today.
- NOT physically fit enough to pull yourself up with the rope to climb to the top.
- NOT equipped with proper gears like water shoes and clothes that can get wet.

Ogimi Village Tourism Association
September 28, 2021

ター滝駐車場 MAP

Ta-taki falls Parking Map

取組内容3：ビジョンと情報発信（看板・ゼロエミッション）

取組内容

沖繩県大宜味村 平南川ター滝 公式サイト
Official Website of Homan River Ta-taki, Ogimi Village, Okinawa

基本情報 事前準備 FAQ ター滝をもっと知る お問い合わせ

ゆかる水ぬ源。人と自然をむすぶ滝
Yukaru — Where Living Water Connects People and Nature.

ター滝安全ガイドビデオ
ター滝に行く前に必ずご覧ください！
Be sure to watch video before visiting Ta-taki!

滝までは川の中を歩き、膝まで濡れながら大人の足で約40分かかります。
Approx. 40 min walk, wading knee-deep in the river.

本日のター滝
Ta-taki Today

2023/06/11 12:19

ステータスは状況に合わせて変更します。あくまで目安として、安全な行動をおこなってください。

閉鎖
Temporarily Closed
ター滝は閉鎖です。入場できません。

川での事故は、全て自己責任になります。十分注意して行ってください。安全な行動を心がけてください。
All guests must take full responsibility for any water accidents. Check the weather conditions frequently.

駐車場の状況
Parking Status

2023/06/11 12:19

混雑
Crowded

混雑。満車時は入場制限。
Busy. Entry may be limited when full.

必ずお読みください。
Be sure to read

- ター滝は自然のままの川で、安全や快適さを確保した設備はありません。身を守るための装備と知識を身につけてから滝に向かいましょう。Ta-taki is a natural, undeveloped river with no facilities for safety or comfort. Please prepare the proper gear and knowledge before visiting to ensure a safe experience.
- 足絆、落とし物が頻れています。川や滝で忘れ物、落とし物をするとは誤りです。貴重品や大切なものは必ず持ちます。コインロッカー（100円）をご利用ください。Items lost in the river or near the falls are rarely recovered. Please do not bring valuables or important belongings. Use the coin lockers (100 yen) instead.

安全ガイドビデオを見る >

安全に楽しむための装備
Safety Gear & Essentials

ター滝への道のりは小川を渡るだけです。川の中を歩き、膝に水が染みわたるまで濡れながら歩く「自然のままのター滝」を楽しみます。すべて自己責任となりますので、十分な準備を怠りません。

おすすめする装備 Recommended Safety Gear

- フェルトシューズ (Felt-shod Shoes)
- ライフジャケット (Life Jacket)
- ヘルメット (Helmet)
- カウチエコード / 洗剤 (Cushieco / Wash Guard)
- ウェットスーツ (水着) / Wet suit

これらの装備はすべて駐車場にレンタルすることができます。
All of this equipment is available for rent at the parking lot.

サンダル、鼻そり、ペンチなどの鋭い道具は持ち込み禁止です。また、川を歩かずに泳ぐ行為も禁止されています。ライフジャケットやウェットスーツ (水着) の着用を推奨しています。安全に楽しむために、適切な装備と知識を身につけて、滝に向かいましょう。Footwear that comes off easily, such as sandals or slides, is dangerous. For safety and full enjoyment, wear a life jacket and, in winter, a wetsuit. Do properly equipped and in good condition before heading to the waterfall. フェルトシューズの着用を強く推奨します。For your safety, we recommend wearing felt boots.

身を守る装備と知識・レンタル機器一覧へ >

ター滝までのルート
Route to Ta-taki

駐車場からター滝までは約1.3km。大人の足で約30〜40分かかります。ター滝への道のりは川の中を歩いて橋を渡る「自然の道」で、リズミのある自然環境です。すべて自己責任になりますので、十分に準備をして臨んでください。

道順 Directions
駐車場を出てから、3分ほど舗装された道を歩くと、ター滝への入口（二つの川の合流点）となる川辺に着きます。2つの川のつり。上流に向かって右側の川を歩いていくと、小滝（マルダムイ）が見えてきます。川に入って小滝の中を渡る（水深があるためライフジャケット必須）、右側の6メートルほどの距離を、オレンジ色のロープを渡って登ります。さらに進むとター滝と合流点となり、階段が出現します。濡れた岩の上は特に滑りやすいので注意が必要です。雨時、高足と体のバランスをうまく使って、崖を登りすまいます。ゴールのター滝（奥滝）までは、大人の足で駐車場から約30〜40分かかります。降り道も気を付けて戻りください。

ター滝よりも上に向かうのは危険のため、絶対に禁止です！
Going upstream beyond Tao Falls is extremely dangerous and strictly prohibited!

ター滝までのルート
The route to Ta-taki Waterfall

出発前にご確認ください。
Please check before departure.

30分
5分
10分

このような装備で行こう！
Recommended gear

濡れた岩の上を歩くと滑りやすいので注意が必要です。
Be careful of slippery rocks when walking on wet rocks.

ライフジャケット (Life jacket)
水シューズ (Water shoes)

ター滝のルール＆マナー
Ta-taki Rules & Manners

地域の自然環境、ご自身とまわりの人のためにも、思いやりの気持ちと自然への敬意・畏れを忘れずに、「おじゃまします」の気持ちで楽しみましょう。
For the sake of the natural environment, yourself, and others, please remember to show care, respect, and humility toward nature. Enjoy your visit with the spirit of "We are guests here."

- ター滝を利用する車両（自転車などの軽車両を含む）は、駐車場に停めてください。
All vehicles, including bicycles and other light vehicles, must be parked in the designated parking area.
- 川や岩でモノを落とすと、回収ができません。貴重品は持って行かないでください。
Do not bring valuables to the river. Lost items are rarely recovered.
- 犬は必ずリードをつけること。フンを持ち帰ります。
Dogs must be kept on a leash at all times. Please take your pet's waste home with you.
- 駐車場で調理することを禁止します。
Cooking is not allowed in the parking area.
- 駐車場内にヤング（3m以上）を設置することを禁止します。
Setting up large tents (over 3 meters) in the parking area is not permitted.
- 駐車場で、スピーカーなどの拡声装置の使用を禁止します。
The use of loudspeakers or sound systems in the parking area or near the river is prohibited.

- お酒の持ち込みは禁止です。重大事故のリスクを高めます。
Alcohol is not allowed. Drinking increases the risk of serious accidents.
- 動植物を持ち帰らないでください。
Do not take plants or animals from the site.
- ゴミ、タバコのゴミは絶対に捨て、持ち帰りましょう。
No littering or cigarette butts. Please take all trash home.
- 滝や岩場からの飛び込みは大げなリスクがあります。十分に注意してください。
Jumping from the waterfall or rocks is dangerous and may cause serious injury.
- 天気の急変による川の増水、落石・倒木に注意してください。
Be aware of sudden changes in weather that may cause rising water, falling rocks, or fallen trees.
- 沖縄の川ではレプトスピラ感染症に注意しましょう。感染すると、はじめは風邪のような発熱症状に似ていますが、悪化すると腎臓や肝不全などを伴う重篤な症状になることがあります（ワイル病）。体調が悪くなったらすぐに病院へ行き、川に入ったことを医師に伝えてください。
Be cautious of leptospirosis, a bacterial infection found in rivers in Okinawa. Early symptoms resemble a cold or fever, but in severe cases it can cause jaundice or kidney failure (Weil's disease). If you feel unwell after entering the river, visit a hospital immediately and inform the doctor that you entered river.

ター滝のサステナブルな取り組み
地産の空、「ゆかる水ぬ源」を未来へ

もっと読む >

ター滝の遊び方
親子ですぐ遊べたって楽しもう！

もっと読む >

ター滝フィールドセンター
Ta-taki Field Center

一般社団法人 大宜味村観光協会（平南川ター滝 駐車場 指定管理者）
TEL: 0980-40-0011

基本情報 >
事前準備 >
FAQ >
ター滝をもっと知る >
お問い合わせ

取組内容4：制度設計

□ ター滝円卓会議の開催 ※詳細は別添の補足資料P7～12を参照

平南川流域ター滝の良好な環境を、持続的に活用できる仕組みづくりを検討するため、関係行政・専門家による円卓会議を開催し、入域制度、保全活動の制度設計、インタープリテーションのあり方、運営体制について検討を行った。

検討内容は以下の通り。

①エコツーリズム推進全体構想における特定自然観光資源指定と入域制度（案）の検討

- ・ 料金徴収を行う場合の最適な法的根拠の検討。制度を具体化するための条例の条文や詳細な内容の検討。
- ・ 将来導入を目指す入域管理や料金徴収の仕組み全体を無力化させる可能性があり、制度の実効性を確保するための具体的な対策が必要である。駐車場での制限だけでは不十分であり、川への入口など他の場所での管理方法や、意図的に公式ルートを回避する利用者への対策として、料金徴収と連動した抜け道のない実効的な入域管理体制の構築が求められる。モデル地域としては、鹿児島県南大隅町・雄川の滝として合意した。

②環境保全活動と制度設計

- ・ 環境保全活動についての各種制度の選択の意義と目的を整理。
自然共生サイト登録を通じて体制整理を検討。



入域制度検討の先進地との意見交換
(南大隅町)

課題

- 来訪者への安全対応や環境保全活動などのフィールド管理を専門とする雇用を創出し地域観光人材を育成すること。人々が大切にしていた文化・神聖性を踏まえた資源管理を重視する仕組みとすること。

取組内容4：制度設計

③ター滝インタープリテーション全体計画のあり方について※詳細は補足資料P30～31参照

ター滝においては、駐車場の管理スタッフがすべての来訪者との主な接点となっている。ガイド利用者は全体の1%未満であるため、ター滝においては、駐車場の管理人（パークキーパー）を地域人材のインタープリターとしてIP計画の中心的な役割と位置づけ、安全な楽しみ方を伝える仕組みを構築する。計画の目的は、地域の価値を再発見し、地域住民の誇りを醸成することにある。今年度で大きな枠組みを構築し、次年度に詳細な計画を完成させる予定。

④大宜味村観光協会 JSTS-D を指標とした DMO 体制整備の検討

DMOは特定のプロジェクトのためだけでなく、村全体の観光振興を目的とする。事業者が主体的に活動できるよう支援する「裏方」や「プラットフォーム」としての役割を担い、先頭に立って主導する組織ではないことを確認。具体的な役割として、フィールド管理、教育・福祉・産業の連携、景観管理とそれに伴う雇用創出などを想定。現在の観光事業に特化した組織から脱却し、福祉、産業、教育など他分野と連携し、地域や暮らしを支える組織へと進化する必要性が提言された。持続可能な観光ガイドラインを指標とし、体制の整備を検討していく。

最終的な目的は、地域に仕事を作り、雇用を生み出すことである。地域の高校生から高齢者までが働ける雇用機会を創出するため、職員の育成（モニタリング調査のサポート等）や、多様な事業者との協働を進める。

ター滝円卓会議 ・ 2026年10月27日10時 ・ 2026年1月13日10時 大宜味村役場会議室

出席者

①大宜味村役場

・大宜味村企画観光課	課長	佐久川紀明氏
	観光係長	前田 文彦氏

②環境省沖縄奄美自然環境事務所

・国立公園課	課長	山崎 麻里氏
		村山 龍斗氏
・やんばる自然保護官事務所	自然保護官	高橋 佳大氏
国立公園高付加価値化企画官		田中 国彦氏

③専門家

・一般社団法人 森林経済研究所	所長	土屋 俊幸氏
-----------------	----	--------

④一般社団法人 大宜味村観光協会（進行）

- ・会長 大崎 史丸
- ・次長 増田 耕平

■取り組む課題

1. 「責任ある観光」の枠組みの整理

- ① 目指す姿 訪問によって地域をより良くする再生型観光
- ② 責任分担の明確化 来訪者・管理者・地域それぞれが責任を担う制度、また観光収入を文化的価値・安全・環境保全への還元を可視化する仕組み作り

2. 地域での合意形成と共有

専門的な協議、地元協議会での合意形成と共有。

■課題への今後の対応策

1. 「責任ある観光」の枠組みの整理

- ① ター滝インタープリテーション全体計画として地域のビジョンを取りまとめる。また、運営する大宜味村観光協会においては、将来的にJSTS-Dに準じた組織となるべくDMO化を検討。
- ② ター滝をエコツーリズム推進全体計画における特定自然観光資源として指定し入域条件を定めるべく検討を行う

2. 地域での合意形成と共有

専門的な協議の場である「平南川流域円卓会議」を開催し、課題を整理。地元協議会「おおぎみツーリズム」地域協議会にて合意形成と共有を図る。

本事業を通して実現する「保全と活用の好循環」の仕組み

保全の具体的内容・方法

- ター滝パークキーパープロジェクト
 - ・ 来訪者に向け（保全・安全・体験向上）レクチャー
 - ・ 日常的な環境、安全モニタリング、避難道管理
 - ・ リスク管理と流域保全活動
 - ・ 官民連携の協議体運営（安全確保や見守り体制）
 - ・ 持続可能な観光学習、人材育成の取り組み推進。
 - ・ 大宜味村が取り組む観光人材事業「おおぎみ案内人」の、「ター滝」におけるインタープリターとして役割を担う
- 責任ある観光を具体化し来訪者へ提示する活動
 - ・ 安全と体験向上を助けるライフジャケットなどのアイテムの用意と必要性の説明。
 - ・ 「マイボトル推奨」と併せた「地元の名水量り売り」による持続可能な使い捨て容器削減活動。
 - ・ 河川環境維持活動の一環として、河川のゴミを持ち帰って来た方を記念撮影し、感謝の写真をお渡しする。

活用の具体的内容・方法

- 世界各地から訪れる人々に、地域人材がター滝を「地域の宝」として、責任ある観光を推進する、デジタル&アナログによるインタープリテーション
 - ・ **旅前、旅後**：ター滝の魅力と地域の自然観・マナーを伝える情報をインターネットを通じて発信。体験後、来訪者が、自国の人々に向けたメッセージを書き入れるデジタル空間での双方向な仕組みづくり。
 - ・ **旅中**：人と人が顔を合わせ大切なことを自らの言葉と行動で伝え合い、アナログツール（看板・シート）などで理解を助ける。デジタル空間を離れ、身体性をもって自然へと向き合う準備をサポートする仕組みづくり。
- 来訪者への安全確保と体験向上、循環社会を目的としたアイテムや取り組みの活用増進による収益増加

活用から保全への還元方法

- 活用と保全が一体となったプログラムへの来訪者の参加「訪問によって地域をより良くする再生型観光」
- エコツーリズム推進法に基づく特定自然観光資源への指定による「観光の収益を安全・保全に還元する仕組み」の確立、オーバーツーリズム抑制の制度設計。来訪者・管理者・地域それぞれが責任を担う「責任ある観光」の枠組みを整備。観光収入を文化的価値・安全・環境保全への還元を可視化する仕組み作り。

【R8年度取組】

環境モニタリング手法策定

- 平南川流域の内、ター滝周辺 哺乳類・爬虫類・両生類・魚類・低生動物・鳥類・植物のモニタリング手法を策定し、試行。
- 前年度未達の春夏期調査実施

コンテンツ強化

- 昨年度の映像コンテンツ、テキストを発展させ新たに追加
 - ①サステナブルな取り組み
 - ②地誌・信仰について
 - ③環境を守る注意事項
- 情報発信の効果検証
- 英語専用サイトの追加

人材育成

- インタープリテーション全体計画の策定、冊子の作成。
- インタープリテーションの実践・ター滝で働く地域人材スタッフが、すべての来訪者へインタープリテーションを実践するための人材育成。

制度設計

- 平南川流域増進活動実施計画の策定と、自然共生サイトへの登録。
- 入域制度の制度内容検討による、観光収益を還元する仕組み作り。

想定する成果

- これまで不明であったター滝の環境状況が明らかになり、保全活動の方向性や活動の効果が図られ、保全の取り組みが明確化する。これはインタープリテーションを充実させる。

想定する成果

- 昨年度のター滝の概要を伝えるコンテンツに、上記映像やテキストを追加することは、より深くター滝を知り大切に思い、保全活動への参加につながる。

想定する成果

- 地域人材がインタープリテーションを整理し、実践することは、平南川流域において、かつての人々が大切にしていた文化・神聖性を来訪者に深く理解していただくきっかけとなる。

想定する成果

- 保全活動の取り組みを強力に推進することに加え、「観光の収益を安全・保全に還元する仕組み作り」を具体化することは持続可能な観光地づくりを確かなものにする。

R8年度のゴール

- 持続可能な観光ビジョンに基づいた保全活動への、インバウンドの認知拡大と参加増進
- 「観光の収益を安全・保全に還元する仕組み作り」の具体化と実施体制強化のための雇用確保
- 保全活動の取り組みを整理し、「自然共生サイト」へ登録。

想定される課題

現行の安全・保全の取り組みは制度的な裏付けがないこと、活動場所は国立公園内であることから、国の規定に基づいた制度にかなう活動として整理したい。今回の事業を通じて活動の位置づけを明確化し、活動の公的な認知と円滑な実施を図りたい。